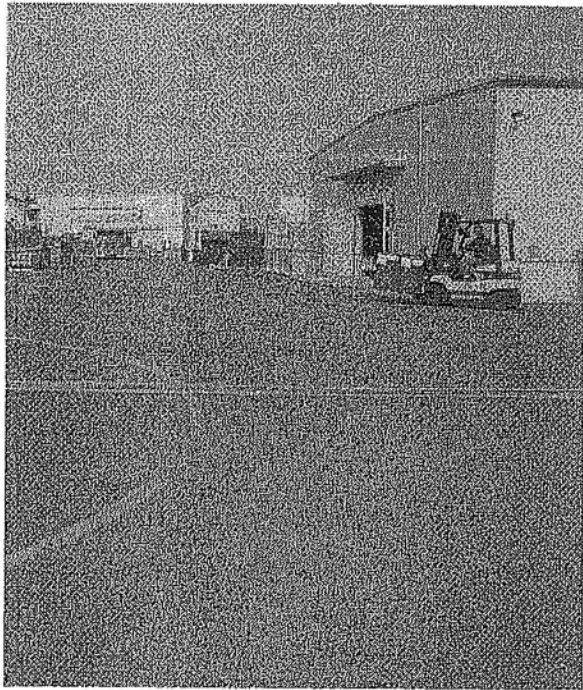


横浜営業所の広大な土地を生かし、物流基地化を目指す保土谷ロジスティックス



保土谷ロジスティックス(阿久津洋人社長、東京都港区)では、横浜営業所(横浜市鶴見区)の広大な土地を生かした物流基地化を目指す。2008年2月に危険物倉庫4棟を増設。大手メーカーから物流拠点集約の引き合いが好調で、2期工事では危険物定温倉庫や普通品倉庫など、顧客の二

ここ数年、各地で危険物倉庫の新増設が相次いでいる。ただ、供給過剰感は一方向になく、危険物倉庫1棟分に相当するような大型の引き合いは、湾岸地区でも内陸でも頻繁にある。危険物倉庫としての付加価値を高めるため、従来の保管と荷役を主体としたサービスから脱皮し、エリアの特性を生かした新たな事業展開に挑む会社も出てきた。

## 危険物倉庫

1ズに合わせた施設を計画  
中だ。

昨年、横浜税関から通関業の許可を得て通関サービスを開始。「倉庫の手配など物流をアレンジできる立場にあるのが通関業者。通

関も含めた窓口の一本化により、顧客の利便性にもつながる」(営業部の浦川貴寛主任)。将来的には、NVOCC(非船舶運航事業)も見据え、通関サービスでは危険物にこだわらず集荷営業に取り組む。

「後発」の危険物倉庫として差別化を図るため、輸出に関しては危険物と普通品を別料金設定としている。危険物と普通品を混載する場合でも、別料金であ

# 頻繁に大型引き合い

れば1か所に置くメリットがある。また、地方の拠点、郡山営業所(福島県郡山市)と南陽営業所(山口県周南市)の立地と広い土地を生かし、「コンテナデポ化」を計画している。

一方、三橋産業(三橋洋之社長、東京都荒川区)グループの越谷配送センター(徳武浩社長、さいたま市岩槻区)では、内陸立地を生かした危険物倉庫が好調だ。昨年3月に増設した危険物倉庫1棟も既に満席。

三橋産業グループの越谷配送センターでは、内陸立地の危険物倉庫が好調



## 広大な土地生かす 流通加工や共配も

「大型集約により、スペースの空きがないため、どうやって売り上げを増やすか」と豊荷主間で、納品車両による原料の引き取りなど物流合理化を提案。また、大手大手日維メーカーははじめ化粧品・香水などの流通加工を手掛けるセラピー(岡博之社長、埼玉真川町)と協業し、指定数量を超えると危険物に該当する商品のシュリンク加工や、危険物以外の案件にも対応。「危険物倉庫として単に保管、荷役だけではこの先生き残れない。流通加工だけでなく、危険物扱いの湿布蒸原料の冷蔵保管などもターゲットにしたい」

同一納品エリア向けの共同配送も拡充する。発荷主と豊荷主間で、納品車両による原料の引き取りなど物流合理化を提案。また、大手大手日維メーカーははじめ化粧品・香水などの流通加工を手掛けるセラピー(岡博之社長、埼玉真川町)と協業し、指定数量を超えると危険物に該当する商品のシュリンク加工や、危険物以外の案件にも対応。「危険物倉庫として単に保管、荷役だけではこの先生き残れない。流通加工だけでなく、危険物扱いの湿布蒸原料の冷蔵保管などもターゲットにしたい」

同一納品エリア向けの共同配送も拡充する。発荷主と豊荷主間で、納品車両による原料の引き取りなど物流合理化を提案。また、大手大手日維メーカーははじめ化粧品・香水などの流通加工を手掛けるセラピー(岡博之社長、埼玉真川町)と協業し、指定数量を超えると危険物に該当する商品のシュリンク加工や、危険物以外の案件にも対応。「危険物倉庫として単に保管、荷役だけではこの先生き残れない。流通加工だけでなく、危険物扱いの湿布蒸原料の冷蔵保管などもターゲットにしたい」

(石井 麻里)